第１回　淡路島地域公共交通活性化協議会

日時：平成 29 年 8 月 23 日(水)14:00～

場所：洲本市役所　４階会議室

次　　第

１．開会

２．会長あいさつ

３．淡路島地域公共交通網形成計画の策定について

（１）これまでの経緯

（２）本協議会の位置付け

４．協議

（１）平成 29 年度協議会予算（案）について　協議１

（２）淡路島地域公共交通網形成計画策定方針（案）協議２

淡路島地域公共交通網形成計画の概要（案）協議２

５．その他

6．閉会

【配布資料】

協議会名簿

配席図

資料１：これまでの経緯及び本協議会の位置付け

資料２：平成 29 年度淡路島地域公共交通活性化協議会予算（案）

別紙：規約等

資料３：淡路島地域公共交通網形成計画策定方針（案）

資料４：淡路島地域公共交通網形成計画の概要（案）

参考資料：淡路島地域の現状

第１回　淡路島地域公共交通活性化協議会　議事録

１．開会

事務局長：ただ今より「平成２９年度 第１回淡路島地域公共交通活性化協議会」を開会する。それでは、会議開会にあたり、福島会長より、ご挨拶をお願いする。

２．会長あいさつ

福島会長：本会議は、オール淡路島で公共交通のあり方を協議する。将来を見つめて、多様な分野より委員の方に参加願い、安心して住み続けられる淡路島をめざし、公共交通をどう整備していくかについて議論をお願いしたい。

事務局長：次に、委員の皆様をご紹介させていただく。なお、本協議会は昨年度３月２７日に設置した。

（各委員、オブザーバーの紹介）

清水委員：委員に淡路関空ラインは、なぜはいっていないのか

事務局長：本協議会の設置日には、会社としてまだ存在していなかったためである。
その後、会社の設立は認識していた。同系列であり新たに委員を出していただく負担を考慮した。

清水委員：淡路ジェノバラインとは別会社であり、委員に入れるべきである。

事務局長：次回より委員として出席をお願いする方向で考えたい。

次に会議の成立要件は、出席委員は２１名で、欠席は、谷池委員、篠田委員、髙﨑委員である。委員の総数は２４名、よって、規約第７条第２項の規定により過半数を満たしており、会議が成立していることをご報告する。

３．淡路島地域公共交通網形成計画の策定について

（１）これまでの経緯
（２）本協議会の位置付け

事務局長：次第の３．淡路島地域公共交通網形成計画について、初就任の委員もいらっしゃるので、「これまでの経緯」と、「本協議会の位置づけ」について、事務局より説明する。

事務局：（資料１により説明）

事務局長：ただいまの説明に対して、ご意見、ご質問等はどうか。

ご意見等がないようなので、以降の協議事項の進行については、福島会長にお願いする。

４．協議

（１）平成 29 年度協議会予算（案）について　協議１

福島会長：協議事項として協議１「平成 29 年度淡路島地域公共交通活性化協議会予算について」事務局より説明を求める。

事務局：（資料２により説明）

福島会長：ただいまの説明に対して、ご意見、ご質問等はどうか。

福島会長：ご意見等がないようなので、お諮りする。
平成 29 年度淡路島地域公共交通活性化協議会予算案について、賛成の方は挙手をお願いする。

福島会長：賛成多数で、平成 29 年度淡路島地域公共交通活性化協議会予算案は承認された。

（２）淡路島地域公共交通網形成計画策定方針（案）協議２
淡路島地域公共交通網形成計画の概要（案）協議２

福島会長：次に協議２として「淡路島地域公共交通網形成計画策定方針（案）について」「淡路島地域公共交通網形成計画の概要（案）について」事務局より説明を求める。

事務局長：こちらについては、網形成計画策定業務契約事業者である㈱地域計画建築研究所大阪事務所よりの説明のご了解をお願いする。

福島会長：了解する。

㈱地域計画建築研究所：（資料３、資料４により説明）

福島会長：協議２についてご意見はどうか。

大嶋委員：資料３の４ページの「（２）目標・将来像」の将来像の移動目的も、３ページの「４　計画の対象」と同様に、基幹交通、幹線交通、端末交通別でくくる必要がある。また、「（３）目標達成のための課題」に端末交通としての自転車交通があがっていない。

福島会長：ご指摘の点は検討していく。

上野委員：明石港からのジェノバラインでの来島に単車が多いが、「（２）目標・将来像」に記述が無い。淡路交通のバス便は東浦では１時間に１本程度で、コミュニティバスと船との接続がない。

福島会長：明石港からの船との接続は大切なことで、下船後の２次交通の検討が必要と考える。

清水委員：関空・洲本航路の場合も２次交通が整備できていない。

福島会長：ともに考えていただきたい。

清水委員：みんなで話し合って歩み寄る必要がある。

福島会長：交通事業者は、日常利用者や観光客と接点がある。交通事業者へのヒアリングも含めて、２次交通のサービスのあり方を考えていく必要がある。

稲留委員：本協議会は、自治体、交通事業者の考えについて意見を聞く場ではなく、対等の場で議論し、みんなで計画をつくっていく場である。課題の解決のために、自治体、交通事業者、地域住民それぞれ何ができるのかを議論する場である。

登日委員：共通の理想像を描くことが大切で、今の運行状況を前提にすると解決しない。どういうものが望まれるのかを共通認識にする。資料３の４、５ページで記載されている「ストレスなく移動できる」とは、少なくとも明石海峡大橋ができる前の状況で、当時 15 分間隔で路線バスが走っていた。もう１点は、今後策定する再編実施計画には補助があるが、補助金目当ての計画は意味がなく、補助金がなくても成り立つ計画が必要である。淡路島の観光客は年間 1400 万人であるが、ほとんどが車利用であり、車で可能な距離圏からしか来ていないといえる。今後、公共交通を利用する観光客を取り込めば、さらに観光客が増える要素が淡路島にはある。そのためには誰が何をするかを考えてもらうことが大事であると思っている。

福島会長：路線バスをみんなで使ってもらうことも、存続するのかも含めて議論しなければならない。

森崎委員：淡路交通では島内の路線バスを担っており、最近では減便、廃止が進んでいる。昔と比べ、日常生活が豊かになった。人の移動については、路線バスの場合、バス停まで徒歩になり、時間制約がある。少子高齢化で学生数が減少し、バス通学者も減少している。バスのライバルは自転車という時代は過去のもので、自家用車が最大のライバルである。携帯電話の普及により、クラブ活動、塾通いの学生を、家族による送迎がたやすくなった。事業者としては限られた輸送力を振り分けてきたが、需要がないところは減便、廃止せざるを得ない。負のスパイラルに陥っている。乗務員不足も大きな問題があり、限られた輸送力で、高速バスの運行、島内路線バスの運行のバランスについて、みなさんの意見を聞き、配分について勉強したい。しかし、民間会社なので、収支が合わなければやっていけない。効率化も必要で、前向きに取り組み、淡路交通も変わったと言われるように、新しい形のものを創造できるようにしたい。

福島会長：神姫バスなどでは、女性の運転手採用などされているので、参考にされてはどうか。

池田委員：タクシーも明石大橋が架かる前は利益が出ていたが、関空の開港、大橋の完成にあわ

せて乗務員を研修し効果を期待した。しかし、客は来なかった。反対に衰退した。その後、平成１０年にコミュニティバスを西淡町で始めた。平成１７年に南あわじ市になってから、らんらんバスを走らせ、市の人口４６,０００人で、利用者が７５，０００人で年々増加しており、人口の１割が利用すれば成功と言われているが大幅に超えている。観光客は貸切バス、マイカー利用であるが、タクシーは毛細管の役割で、利用が増えるよう研究したい。

福島会長：観光客と住民の利用の２面がある。観光利用が少ないことについてはアイデアが必要で、配車サービスがスマートフォンで可能とか、地域の中で利用する場合乗り合いタクシーという形も考えられ、いろんなモードでデザインすることが大切である。

スマホでの送迎がいいのかどうか。いずれ、高齢化が進むと自家用車での送迎ができなくなる。また、病院通いはどうするのか。地域内での話し合い、地域コミュニティの状況により若い人が隣の人を同乗させて買い物に行くなど、地域での支えあいが必要になる。交通政策基本法では、それぞれの主体が交通を支えるとあり、住民の役割もある。ともに考えることをしないといけない。地域のコミュニティも担ってもらわないといけない。例えば、１週間に１回くらいはバスを使うとか。

商工会では、仕事の中でこういう日はバス利用にしたいとか、また、観光協会はどうか。観光資源は豊かであるが、現在、自動車での利用が高いが、公共交通で地域を巡ることを進めたいなど、どうか。

福浦委員：観光客は、京阪神からが７~8 割で、ほとんど車である。公共交通で来てもらえる観光のターゲットは、インバウンド、首都圏へのＰＲとなる。２次交通が大きな課題で、それを利用することを踏まえて計画をたて、ラッピング等、バス、乗り物に魅力があることも必要である。

福島会長：JR 九州、貴志川線等、いろいろ工夫の事例がある。観光客も高齢化する中で自家用車の運転が難しくなり、移動に公共交通を利用するようになる。例えば、公共交通を利用した淡路島で魚を食べたい等のモデルプランを提示すれば、公共交通の利用につながるのではないか。

中澤委員:バス協会では、今年の８月１日～１２月１７日までの期間限定で企画乗車券を発売し、路線バス、コミバスを活用して地域を活性化することを行っているので、網形成計画を立てるに当たって取り入れてもらえば思う。その場合、路線バス、タクシー、コミ

バスの乗り継ぎ、結節点を確保して取り組むことが重要である。

福島会長：ジェノバラインと連携し、島内一周イベントとか、いろいろな主体との連携が必要である。

池田委員：企画乗車券に、南あわじ市、沼島も入れてほしい。

中澤委員：検討していく。

福島会長：高速バスの利用からはどうか。

前田委員：運行会社 4 社での高速バス協議会があり、淡路島活性化協議会には当社が代表幹事として出席させていただく。高速舞子バス停は淡路島の玄関口である。特に近年、人口減少により通勤通学が減少しているが、観光客が増えているので需要減少は目立たない。今後の減少傾向によっては対策が必要となり、高速バス便数の見直しにもなるので、観光客に使ってもらえるようサービスを向上したい。高速舞子バス停にはルールがあり、今以上に発着枠がとれない。四国方面、淡路島方面の 2 つの乗り場があるが、前後 5 分開ける必要があるため、時間あたり 12 本以上は増便できない。バスには、目的がないと乗らない。商工会には、淡路島に来るしかけづくりをしていただきたい。きっかけがないと乗らないので、みんなでしかけづくりが大切である。

福島会長：観光と、島内から神戸・大阪へ出て行く場合は違う。島内からはパークアンドライド、駐車場、島外からはターミナル以遠の交通手段の整備に関わってくる。

登日委員：観光施策を考える上で情報提供する場合、淡路島の強みと弱みを把握するべきである。インバウンドでは、フランス人は文化・歴史を好むので伊弉諾神宮など重要な資源がある。香港人は食を目的とする。何を生かせるかデータを見ながら強みを高めていき、公共交通により島全体を活性化していくことが大切である。

福島会長：JTB のアイデアを借りたい。

稲留委員：生活交通の話に戻すが、持続可能な交通を可能にするには、楽しかったこととか、こういうものがあったら乗る等、気軽に考えることが大切である。例えば地域内で月 1

回飲みに行くのにバスを使う、駐車場割引と同様にバス割引も行う、店には時刻表がはってあるとか、ざっくばらんにアイデア出ししてはどうか。

池田委員：６５歳以上の高齢者の免許返納に伴い、タクシー割引は受け入れているので、警察もＰＲしてほしい。

宮地委員：南あわじ市商工会では、観光客のインバウンド研究等、資料３の７ページの「観光客による利用に着目して」手立てがあるかどうか考えているが、なかなか出てこない。公共交通を島だけで見るのか、国宝姫路城や四国との連携に淡路島を入れていくか等を検討するインバウンドの協議会を立ち上げている。地元が地元を分かっていないので、公共交通をどうするのか、現実的な検討をしている。

福島会長：一緒に考えていきたい。淡路島から四国へ行くにはどうするかの絵を描いていき、現状ではどこに問題があるかを示していく。

３市の担当部長も出席していただいており、幹線と支線の関係を示すハブアンドスポークの考え方で、ハブでは地産品を販売するなどでてこ入れするなど、魅力を高める必要がある。淡路島地域では立地適正化の計画はまだないが、都市構造、機能配置、交通の関係はどうしていくか。

寺岡副会長：洲本市はかつての城下町に県立病院、ショッピングセンター、官公庁があり、そこを中心とした都市構造となっており、公共交通も放射構造となっている。また、拠点間の経路が長い。短い経路でネットワークを組み、中間地点を設けて利用を増やす工夫が要る。

井戸委員：淡路市では、北部では自主運行で路線２ルート、観光１ルートを運行し、年間６万人利用、うち観光１万人、観光客で地域を支える。南部では路線３ルート、観光１ルートを平成３１年目途で準備を進めている。観光客を取り込む政策を考えたい。

原口委員：南あわじ市は、高速バス便で四国から京阪神、関東方面は往復 400 便を超え、うち南あわじ市内で乗降可能は 39 便のみである。島内で乗降できるようにすれば観光客が増えるのではないか。コミバスは生活路線で、利用者は平成２６、２７年度９万人。病院、買い物、通学が 6～7 割で、市内の生活路線である。空白地はＮＰＯの自主運行で埋める。地域でまちづくり、事業実施できればと考えており、補助も来年度考え

ている。3市をまたいだ形態を維持し、洲本市、淡路市と連携する路線を整備したい。

福島会長：コミバスを含めた3市連携は重要である。3市をつなぎ、島全体で使いやすい公共交通網をつくっていく。通勤は大半がマイカーで、少しでもバスを利用するためにはどうしたらよいか。商工会も含めて、通勤・通学時間に合った使える公共交通機関とするためにはどうしたらよいか。いろいろな方々の知恵を借りて計画を作成するのでご協力をお願いする。

本日の協議会後も、ご意見があれば引き続き事務局の方へお願いする。

今後、アンケート等の調査も含めて網形成計画を策定する必要がある。

本日の会議はこれで終わりにしたいと思う。

それでは、事務局に以降の進行を託す。

事務局長：次第の5．その他については、報告等はない。それでは、閉会にあたり、寺岡副会長にご挨拶をお願いしたいと思う。

寺岡副会長：今年度1回目の会議で委員の皆様からは、多岐にわたりご意見をいただき感謝する。今年度は、「網形成計画」の作成にあたり、会議があと3回予定されており、次回は本日のご意見・アンケート結果などを踏まえ、計画の骨格を示す。そして、「網形成計画」作成の次には「公共交通ネットワークの再編」が検討されていく。

委員の皆様もそれぞれのお立場で、淡路島の公共交通が持続可能で市民や来訪者にとってよりよいものとなるようご支援をお願いする。

事務局長：以上で、本日の会議は終了する。

以　上